

平成 27 年度 言語聴覚療法部門 教育計画

1. 基本方針

- セラピスト個々の目標を尊重し、専門職業人としての成長を支援する
- 利用者の多様なニーズに対応するため、計画的に研修会等に参加し、そこで得られた新しい知識や技能を、速やかに部内に伝達、共有する。
- 効率的なチームアプローチができるよう、部門間の垣根を越えて学術的な交流を図る。
- 各セラピストが担当分野を持ち、専門性を高めることも必要だが、誰かが病気や出産等様々な理由で長期離脱する場合でも、他のスタッフがフォローできる体制を整える。(表1)

2. 中期目標

- 日本言語聴覚士協会の生涯学習プログラム、基礎講座を全員が完全履修する
- 日本言語聴覚士協会の認定言語聴覚士（失語・高次脳機能障害領域、摂食嚥下障害領域、言語発達障害領域、聴覚障害領域）を養成する
- 吃音に対する言語聴覚療法を実施するため、ホームページ等を通じて情報発信するとともに、更なる指導技術向上を目指す

表 1

分野	成人	小児
失語症、高次脳機能障害	藤谷、清水、秋田、松下あ、水野、 飴谷、小渡	
構音障害	藤谷、清水、秋田、松下あ、水野、 飴谷、小渡	松下真、秋田、松下あ、水野、飴谷、 小渡
摂食嚥下障害	藤谷、清水、秋田、松下あ、水野、 飴谷、小渡	松下真、秋田、松下あ、水野
言語発達遅滞		松下真、秋田、松下あ、水野、飴谷、 小渡
吃音	秋田	秋田、松下真
聴覚障害	藤谷、飴谷、小渡	飴谷、小渡

網掛はリーダー

3. 学術活動

定期的に開催され、参加が推奨される活動

勉強会

- ・奈良県言語聴覚士会主催の勉強会（12回／年）
- ・リハビリテーション科内の勉強会（随時）

症例検討会

- ・奈良県言語聴覚士会主催の症例検討会（1回／年）
- ・部門内症例検討会（3回／年）
- ・部内ミニケーススタディ（12回／年）

研修会その他

- ・奈良県言語聴覚士会主催の研修会（2回／年）

セラピスト個人で参加する活動

部門内教育活動

各セラピストが年度ごとに学術的なテーマを持って活動する（表2）

表2

	分野	備考
飴谷	言語発達遅滞、高次脳機能障害、聴覚障害	
小渡	言語発達遅滞、摂食嚥下障害、聴覚障害	
松下綾	高次脳機能障害、構音障害、摂食嚥下障害	
水野	高次脳機能障害、言語発達遅滞、摂食嚥下障害	
曾山		育休中
秋田	言語発達遅滞、摂食嚥下障害、吃音	
松下真	言語発達遅滞、摂食嚥下障害、吃音	
清水	高次脳機能障害、構音障害、摂食嚥下障害	
藤谷	高次脳機能障害、構音障害、摂食嚥下障害	

学会、研修会参加

定期的に機関誌、雑誌を発行している団体が主催する、学会や研修会を優先的に選択する。（表3）
構音障害や摂食嚥下障害、失語症など、テーマに沿った内容の学会、研修会への参加意思を示し、部門内での承認を得る。

- ・言語発達関連
- ・聴覚障害、補聴器関連
- ・摂食嚥下障害関連
- ・高次脳機能障害関連
- ・音声言語機能関連
- ・その他、言語聴覚療法に関連するもの

表 3

臨床経験	3年未満	10年未満	10年以上
研修会 学会	各種基礎コースに参加 全国レベルの学会に参加	各種専門コースに参加	左記に加え、マネジメント等の研修など

H27 年度出張予定

	名称	出張地
飴谷	補聴器講習会	東京
小渡	全体構造法	東京
松下あ	未定	
水野	未定	
秋田	吃音セミナー	東京
松下	未定	
清水	未定	
藤谷	未定	

研修会等に参加して得られた知識、情報は、速やかに伝達講習を行い、部門内に還元する。